

◇会議報告◇

日中韓三カ国会計基準設定主体会議報告

ASBJ 専門研究員 富田 真史

ASBJ 専門研究員 山田 正顕

ASBJ 専門研究員 中西 美樹

1. はじめに

2024年10月31日に、第24回日中韓三カ国会計基準設定主体会議（以下「本会議」という。）が韓国の済州島で開催された。本会議は、東アジアの近隣三カ国の会計基準設定主体者間で、内外の様々な問題について認識を共有し、意見交換を行うことを目的としてスタートしたものである。本会議には、企業会計基準委員会（ASBJ）の川西安喜委員長、中国会計准则委員会（CASC）の Juan Zhang 副司長、韓国会計研究院（KAI）の Han Yi 会長をはじめとする三カ国の代表者が参加し、香港及びマカオからも、香港公認会計士協会（HKICPA）の Cecilia Kwei 基準設定部ディレクター及びマカオ会計士委員会（PCA）の Pou Man Ng 委員が参加した。ASBJ から、川西委員長に加えて、紙谷副委員長、山口常勤委員、湯原アシスタント・ディレクター及び筆者が出席した。

なお、文中の発言者及び筆者の意見にわたる部分は、各人の私見であり所属する団体・組織の見解ではない。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
1	開会の挨拶	Sumi Lee 副委員長（韓国会計基準委員会（KASB））
2	祝辞	Steve Lim 理事会議長（KAI）
3	会計基準に関する動向の近況報告	ASBJ CASC

	議 題	担 当
		KASB HKICPA PCA
4	テクニカル・セッション 1 ● 電力購入契約 (PPA)	ASBJ
5	テクニカル・セッション 2 ● 持分法	CASC
6	テクニカル・セッション 3 ● IFRS 第 16 号「リース」の適用後レビュー	KASB
7	次回日中韓三カ国会計基準設定主体会議に 向けた議論	
8	閉会の挨拶	Sumi Lee 副委員長 (KASB)

3. テクニカル・セッションにおける主な議事概要

(1) 電力購入契約 (ASBJ)

本セッションでは、ASBJ より、我が法域において範囲を限定した会計上の取扱いの検討を行っているバーチャル PPA に関して、会計処理を行う単位及び renewable energy certificates (RECs) の会計処理についての分析及び見解について説明がなされた。参加者からは、バーチャル PPA に含まれる 2 つの要素を区分又は一体として会計処理すべきか、対価の支払義務に関する負債をいつ認識すべきか、負債認識時に会計上の資産を認識するか又は費用処理を行うか、RECs を将来の報告期間に繰り越して使用する場合の会計処理及び RECs を移転することができる場合の会計処理についての意見が交わされた。

(2) 持分法 (CASC)

本セッションでは、CASC より、国際会計基準審議会 (IASB) が 2024 年 9 月に公表した持分法会計の公開草案に関して、法域におけるアウトリーチの状況や当該アウトリーチによって識別した論点等について説明がなされた。参加者からは、公開草案の提案に関して、のれんと割安購入益の相殺の是非、関連会社との取引についてのあるべき会計処理、減損の要求事項への懸念及びプロジェクトの目的と進め方等について意見が交わされた。

(3) IFRS 第 16 号「リース」の適用後レビュー (KASB)

国際関連情報

本セッションでは、KASB より、IFRS 第 16 号「リース」（以下「IFRS 第 16 号」という。）の適用後レビューに関して、法域における IFRS 第 16 号の導入支援の状況並びに識別された適用上の課題のうち変動リース料及びリース期間に関する論点について詳しい説明がなされた。参加者からは、各法域における IFRS 第 16 号の適用後レビューへの対応状況について共有がなされ、変動リース料及びリース期間に関する適用上の課題についても意見が交わされた。

4. その他

本会議の閉会に当たり、KASB の Sumi Lee 副委員長より、本会議の参加者に対して謝意が示された。次回の会議は、2025 年に日本で開催することが確認された。



以上